

消 化 器

科目責任者 入 澤 篤 志
 学年・学期 3 学年・1 学期

I. 前 文

本講義は、口腔・食道・胃・小腸・大腸・直腸・肛門の消化管に加えて、肝臓・胆道・膵臓・腹膜等の諸臓器が含まれる。主としてこの領域における疾患の病態・診断・治療についての講義内容になるが、これらの理解に必要な病理学各論・実習も含まれている。

なお、本講義は Active learning を取り入れており、事前学習資料を基に、授業内容に関する予習を確実に行ってくことで、実際の講義内容の理解がより深まる。

II. 担当教員

内科学（消化器）	（入 澤 篤 志）
外科学（上部消化管）	（小 嶋 一 幸）
外科学（肝・胆・膵）	（青 木 琢）
放射線医学	（曾 我 茂 義）
口腔外科学	（川 又 均）
病理診断学	（石 田 和 之）（病理学各論 I, 病理学各論実習 科目責任者）
埼玉医療センター 消化器内科	（玉 野 正 也）

III. 一般学習目標

基礎で習った知識を前提に、消化器臓器の構造、各疾患の病態・診断・治療について理解し、Clinical Clerkship、その後の医師国家試験に対応できる十分な知識を得ることを目標とする。

IV. 学修の到達目標

- (1) Active learning により、効果的な受講に努める。
- (2) 一時的な知識の獲得ではなく、4 年生で学ぶ「臨床推論演習」、Clinical Clerkship、医師国家試験にも対応できるように知識の保持に努める。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1：反転授業の要素を含む授業（知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。）
 2：ディスカッション、ディベート 3：グループワーク 4：実習、フィールドワーク 5：プレゼンテーション
 6：その他)

	回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブラーニング
	1	4	3	月	3	肝疾患総論	内科学（消化器） 飯 島 誠	1
各 I	2		4	火	4	肝の病理（非腫瘍）	病 理 診 断 学 石 田 和 之	1
各 I	3		10	月	1	肝の病理（腫瘍）	病 理 診 断 学 石 田 和 之	1
	4		10	月	2	急性肝疾患 急性肝炎・薬物性肝障害	内科学（消化器） 有 阪 高 洋	1
	5		10	月	3	慢性肝疾患 I 慢性肝炎	内科学（消化器） 眞 島 雄 一	1

	回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
実	6	4	10	月	5	慢性肝疾患Ⅱ 肝硬変・門脈圧亢進症	内科学(消化器) 飯 島 誠	1
	7		11	火	1	病理実習Ⅰ 肝疾患の病理	病 理 診 断 学 石 田 和 之	4
	8		12	水	4	慢性肝疾患Ⅳ 代謝性肝疾患	内科学(消化器) 大 西 俊 彦	1
各Ⅰ	9		14	金	3	慢性肝疾患Ⅲ 自己免疫性肝疾患	埼玉医療センター 消 化 器 内 科 玉 野 正 也	1
	10		17	月	1	胆道の病理	病 理 診 断 学 石 田 和 之	1
	11		17	月	3	胆・膵疾患総論	内科学(消化器) 入 澤 篤 志	1
各Ⅰ	12		18	火	1	膵の病理	病 理 診 断 学 石 田 和 之	1
	13		18	火	2	肝腫瘍性病変	内科学(消化器) 小 池 健 郎	1
	14		21	金	5	肝・胆・膵の画像診断(肝)	放 射 線 医 学 石 原 克 俊	1
実	15		24	月	3	肝・胆・膵疾患の画像診断(胆・膵)	放 射 線 医 学 石 原 克 俊	1
	16		24	月	5	肝疾患の外科治療Ⅰ	外科学(肝・胆・膵) 青 木 琢	1
	17		24	月	6	肝疾患の外科治療Ⅱ	外科学(肝・胆・膵) 青 木 琢	1
	18		25	火	1	病理実習Ⅱ 胆膵疾患の病理	病 理 診 断 学 石 田 和 之	4
	19		28	金	1	胆道疾患Ⅰ 良性疾患	埼玉医療センター 消 化 器 内 科 曾 我 幸 一	1
	20		28	金	3	膵疾患Ⅰ 良性疾患(1.急性膵炎)	内科学(消化器) 入 澤 篤 志	1
	21	5	1	月	2	膵疾患Ⅱ 良性疾患(2.慢性膵炎・自己免疫性膵炎)	内科学(消化器) 入 澤 篤 志	1
	22		1	月	3	膵疾患Ⅲ 腫瘍性疾患	日光医療センター 消 化 器 内 科 佐 藤 愛	1
	23		1	月	5	胆膵疾患の外科治療Ⅰ 良性疾患	外科学(肝・胆・膵) 森 昭 三	1
	24		1	月	6	胆道疾患Ⅱ 腫瘍性病変	内科学(消化器) 山 宮 知	1
	25		8	月	5	胆膵疾患の外科治療Ⅱ 腫瘍性疾患(1)	外科学(肝・胆・膵) 青 木 琢	1
	26		8	月	6	胆膵疾患の外科治療Ⅲ 腫瘍性疾患(2)	外科学(肝・胆・膵) 青 木 琢	1
	27		9	火	3	消化管の画像診断	内科学(消化器) 阿 部 圭 一 朗	
	28		9	火	6	肝・膵疾患に対する移植治療	外科学(肝・胆・膵) 青 木 琢	1
	各Ⅰ	29		15	月	3	食道疾患の病理	病 理 診 断 学 石 田 和 之
30			15	月	5	消化管疾患総論	内科学(消化器) 田 尻 久 雄	1
31			17	水	3	食道疾患Ⅰ 良性疾患(胃食道逆流症・静脈瘤等)	内科学(消化器) 渡 邊 菜 穂 美	1

	回数	月	日	曜日	時限	講義テーマ	担当者	アクティブ ラーニング
	32	5	17	水	4	口腔：構造・機能・歯科疾患・口腔ケア	口腔外科学 川又均	1
	33		22	月	2	食道疾患Ⅱ 腫瘍性病変	内科学(消化器) 郷田憲一	1
各Ⅰ	34		22	月	3	胃・十二指腸疾患の病理(非腫瘍)	病理診断学 石田和之	1
各Ⅰ	35		25	木	1	胃・十二指腸疾患の病理(腫瘍)	病理診断学 石田和之	1
	36		29	月	1	食道疾患の外科治療	外科学(上部消化管) 中島政信	1
実	37	6	1	木	1	病理実習Ⅲ 食道	病理診断学 石田和之	4
	38		2	金	4	胃・十二指腸疾患Ⅱ 腫瘍性病変	内科学(消化器) 郷田憲一	1
	39		5	月	2	胃・十二指腸疾患の外科治療Ⅰ	外科学(上部消化管) 小嶋一幸	1
	40		5	月	3	胃・十二指腸疾患の外科治療Ⅱ	外科学(上部消化管) 小嶋一幸	1
実	41		9	金	1	病理実習Ⅳ 胃・十二指腸	病理診断学 石田和之	4
各Ⅰ	42		12	月	4	腸疾患の病理(非腫瘍)	病理診断学 石田和之	1
各Ⅰ	43		13	火	1	腸疾患の病理(腫瘍)	病理診断学 石田和之	1
	44		13	火	2	小腸疾患(イレウス除く)	内科学(消化器) 前田光徳	1
	45		13	火	3	腸閉塞・大腸ポリポーシス・肛門病変	外科学(上部消化管) 井原啓佑	1
	46		13	火	7	胃・十二指腸疾患Ⅰ 良性疾患(潰瘍, 機能性胃腸症等)	内科学(消化器) 阿部圭一朗	1
	47		19	月	1	大腸腫瘍性病変	内科学(消化器) 富永圭一	1
	48		19	月	2	大腸・肛門腫瘍の外科治療Ⅰ	外科学(肝・胆・膵) 石塚満	1
	49		19	月	3	大腸・肛門腫瘍の外科治療Ⅱ	外科学(肝・胆・膵) 蜂谷裕之	1
実	50		19	月	4	病理実習Ⅴ 非腫瘍性腸疾患	病理診断学 大和田温子	4
実	51		20	火	4	病理実習Ⅵ 腫瘍性腸疾患	病理診断学 大和田温子	4
	52		21	水	4	炎症性腸疾患Ⅰ ベーチェット病・感染性腸炎等	内科学(消化器) 富永圭一	1
	53		22	木	2	腹膜疾患(腹膜炎・腫瘍・ヘルニア等)の診断と治療	外科学(上部消化管) 中川正敏	1
	54		22	木	3	炎症性腸疾患Ⅱ 潰瘍性大腸炎・クローン病	内科学(消化器) 増山仁徳	1
	55		22	木	4	炎症性腸疾患の外科治療	外科学(上部消化管) 中村隆俊	1

注) 上表のうち、左端の「各Ⅰ」「実」と表示されたコマは、それぞれ別科目「病理学各論Ⅰ」、「病理学各論実習」の授業であるが、科目構成上「消化器」の授業とともに表記されている。

Ⅵ. 評価基準(成績評価の方法・基準)

定期試験、受講態度等を総合的に評価する。評価の割合は、定期試験90%、その他10%とする。

但し、合格するには定期試験の成績が60点以上であることが必須である。

Ⅶ. 教科書・参考書・AV資料

教科書は特に指定しないが、いわゆる参考書を越えた、内科学・外科学・病理学の一般的教科書は1冊用意しておくことが望ましい。

Ⅷ. 質問への対応方法

各授業終了後に直接対応。それ以外の場合は教務課を通して質問を受け付ける。

Ⅸ. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	◎
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	◎
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	○
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験問題の解答に関する解説をもってフィードバックする。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

事前資料や教科書を基に、講義テーマについての事前学習を求める。予習時間は授業ごと60分は必要。

XII. コアカリ記号・番号

A-2-1), A-2-2), C-2-2), C-4, D-7, E-2, E-3, E-4, E-5,

F-1-1) ~ 7), F-1-10) ~13), F-1-16), F-1-18) ~27), F-2-1) ~9), F-2-11) ~13), F-2-16)